

# 国際交流基金助成事業報告書

薬学部 4年次生 M.A

## 1. はじめに

私は国際交流基金の助成を受け、8月26日から9月3日までボランティア活動としてカンボジアのプノンペンに行きました。このボランティア活動での経験を報告いたします。

## 2. ボランティア活動での目標

私たちが所属していたボランティア団体は、NPO法人のワールドシップオーケストラという団体です。今回、私は渡航前に目標として「現地の子どもたちに音楽の楽しさや力を伝え、音楽に触れるきっかけ作りに貢献したい」と考えていました。私自身、音楽が大好きなので、オーケストラを聞いたことのないカンボジアの子どもたちにも音楽に興味を持ってもらい、将来音楽をはじめようとする時や日々の生活に音楽を取り入れるきっかけになればいいなと思っていました。

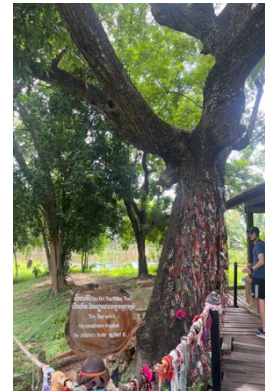
## 3. 歴史学習



今回、トゥールスレンとキリングフィールドにある施設を訪れ、カンボジアの歴史について学びました。

トゥールスレンは1975年から1979年にポルポト政権によってカンボジアの国民が拷問を受けていた場所です。元々高校校舎として使われていた場所が収容所として使われ、知識人とその家族が収容されていました。200万人ほどが収容されていましたが、生き残ったのはたったの7人でした。館内には、実際に拷問が行われていたベッドなどのさまざまな設備や、当時の様子を描いた痛ましい絵が展示されていました。

キリングフィールドは、トゥールスレンで収容されていた人々が連れてこられて殺されていた場所です。右の写真に写っている木は「キリングツリー」と呼ばれており、子供たちが頭を打ちつけられて殺されていたそうです。ポルポト政権によって国民は4分の1ほどまで減り、識字率は40%未満にまで落ち込んだと言われています。当時は音楽も禁じられており、音楽を知らない子どもたちがたくさんいました。そのことを聞いて、当たり前のように音楽ができていた自分はなんて恵まれていたのだろうと思い知りました。



#### 4. 活動内容

私たちは、現地で3回の演奏会と、現地のユースオーケストラ団体と高校生のマーチングバンドと合同練習を行いました。

まず初日にユースオーケストラ団体と合同練習を行い、はじめてカンボジアの人々の



演奏を聞きました。音楽がとても楽しいと感じている様子と、とても真剣に向き合っている様子を見て、音楽はどこの国でも世界共通なんだと思いました。吹き方などを教える際に普段使わないような英語を使って表現しなければいけないので、少し苦戦しました。練習後には、演奏していた曲と一緒に歌いながら片付けを行ったりして、とても楽しかったです。

2日目には、SOS children's village という現地の孤児院で演奏しました。演奏を聴いてくれていた子どもたちは、小さい子では2歳、大きい子では18歳と幅広い年齢の子供達がいきました。「オーケストラをきくのが初めての人はいますか？」と演奏会中に投げかけると、全員が手を挙げていました。この様子を見て、やはり音楽文化はあまり一般的なものではないのだなと思いました。



はじめてオーケストラをきいた子どもたちは、演奏途中でも歓声をあげて拍手をしてくれて、ずっと目をキラキラさせながら演奏を聴いてくれていました。演奏会の最後には楽器体験を行いました。ここで楽器に触れた思い出が大人になっても残っていて、いつか音楽をはじめるときのきっかけになればいいなと思いました。

3日目と4日目は Bak Touk High School という現地の高校にあって、ワークショップと演奏会を行いました。この高校は芸術高校でマーチングバンドがあり、音楽を勉強している子どもたちがいたのですが、ここで「オーケストラをきくのがはじめての人はいますか？」と孤児院の時と同じ質問





をすると全員が手を挙げており、オーケストラをきく機会はなかなかないんだなと思いました。ワークショップをしているときに高校生と練習して話していると、私たちが当たり前のように受けていたレッスンはなく、楽器を教えてくれる人がいないので全部自分たちで練習をしていると言っていたのに驚きました。基礎練習なども「ロングトーン」という

音を伸ばす練習しか知らなかったもので、私たちの知っている練習法をできる限り伝えました。演奏会の時には、みんなはじめてオーケストラを聴くとのことと、とても表情豊かに聴いてくれて、音楽を続けていてよかったなと思いました。指揮者体験では現地の高校生に指揮を振ってもらったのですが、指揮をしている子も見ている子もとても楽しそうにしてくれていたのが、本当に嬉しかったです。演奏会終了後も、高校生たちが動画に撮った私たちの演奏をずっと聞き返している姿をみて、もっと様々な曲を聞かせてあげたいなと強く思いました。

5日目の最終公演では、1500席もあるカンボジアの1番大きなホールで演奏しました。演奏会では客席は満員でした。ここでも「オーケストラをきくのがはじめての人はいますか？」と尋ねると、ほとんどの人が手を挙げていました。演奏会ではカンボジアで最も有名な民謡のような曲を演奏したのですが、前日に高校生たちからその民謡のダンスを教わり、最終公演では踊りもつけて演奏しました。自分の国の馴染みのある曲になると、より一層客席の人たちから歓声があがり、一緒に踊ってくれる方もいて、とても嬉しかったです。この演奏会が終わった後、お見送りにロビーまで出ると、たくさんの方が私たちを拍手と歓声で迎えてくれて、その光景を見た時に、良い演奏会にできてよかったなと強く思いました。



## 5. これからの自分

今回のボランティア活動を通じて、改めて音楽の素晴らしさを実感するとともに、これまで自分が自由に音楽に触れられてきたことが非常に恵まれた環境であったことに気づくことができました。オーケストラに馴染みのないカンボジアの人々が音楽に触れ、喜びや驚きを感じている姿を目の当たりにし、音楽の持つ力をさらに多くの人に届けたいという思いが強まりました。私自身は専門的に音楽を学んできたわけでは

ありませんが、それでも人を笑顔にできることに大きな励みを得ました。今後もこの経験を糧に、音楽を通じて人々に喜びや感動を届けられる活動に積極的に取り組んでいきたいと考えています。

## 6. 終わりに

今回、このボランティア活動に参加して、貴重な体験をたくさんさせていただきました。それも手厚い支援をしていただいた国際交流基金助成事業のおかげです。ありがとうございました。